

北海道ぎょれん広報

なみまるくん



5

2013
No.295

[うみ・なかま コミュニケーション]

北海道
ぎょれん



特集

平成25年度ぎょれん事業計画 ～後編～
組合の新施設が完成しました



第2回 知床羅臼フェア in 大通ビッセ



平日の昼も多くのお客さんで賑わう物販コーナー

「羅臼昆布は、だしを取るだけでなく、特に養殖昆布は食べると柔らかく甘みがあつておいしいですよ。」とPR。話を聞いて乾燥した昆布を原藻で買っていくお客さんも見られ、売り場は連日、多くの市民や観光客で賑わいました。



原藻の羅臼昆布を見せながらPRしました。

札 幌市中央区の商業施設「大通ビッセ」の地下歩行空間において、3月29日(金)から10日間、「第2回知床羅臼フェアin大通ビッセ」(同実行委員会主催)が開催されました。このイベントは、昨年のさっぽろ雪まつりに合わせて1ヶ月間開催された「第1回知床羅臼フェア」の第2弾。同実行委員会の菅原史夫(ふみひろ)会長(羅臼漁協青年部長)は、「青年部、女性部、各部会、漁協の協力で第2回を開催することができました。羅臼で獲れる魚の良さと観光地としての魅力を直接お客さんに伝えられる絶好の機会です。」と教えてくれました。

世界自然遺産に登録された羅臼の雄大な自然を写真パネルで紹介する観光コーナー。その隣で行われた羅臼直送販売会では、前回好評だった羅臼ブランドの鮭とばや昆布製品、女性部手作りのエコ石鹸に加えて、漁協直売店「海鮮工房」の全面協力により、ほっけの開きやういの塩水パック、いかの一夜干しなど冷蔵・冷凍品が充実しました。また、羅臼昆布を使った昆布茶の試飲を行いながら、「羅臼昆布は、だしを取るだけでなく、特に養殖昆布は食べると柔らかく甘みがあつておいしいですよ。」とPR。話を聞いて乾燥した昆布を原藻で買っていくお客さんも見られ、売り場は連日、多くの市民や観光客で賑わいました。

[うみ・なかま コミュニケーション]

なみまるくん

北海道ぎょれん広報誌
Hokkaido Gyoren Magazine
May 2013 No.295

5

- 01 浜の元気印!
第2回 知床羅臼フェア in 大通ビッセ
- 02 特集1
平成25年度ぎょれん事業計画 ー後編ー
- 08 特集2
北るもい漁協、宗谷漁協の新施設が完成しました
- 10 浜の家族物語
西網走漁協/山本 剛史 さん ご家族
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 海・ひと・夢 インタビュー
弁護士法人 小寺・松田法律事務所 弁護士/小寺 正史 さん
- 14 なみまるインフォメーション
- 16 大漁祈願!
浜のほっとニュース
- 17 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱

表紙の写真
西網走漁協/山本 剛史さんご家族です。



ほたて稚貝の出荷が最盛期を迎えている能取漁港

【国内】 親対策

輸入鮭鱒との競合により奪われた秋鮭製品の売り場回復に向けた消費拡大対策の推進

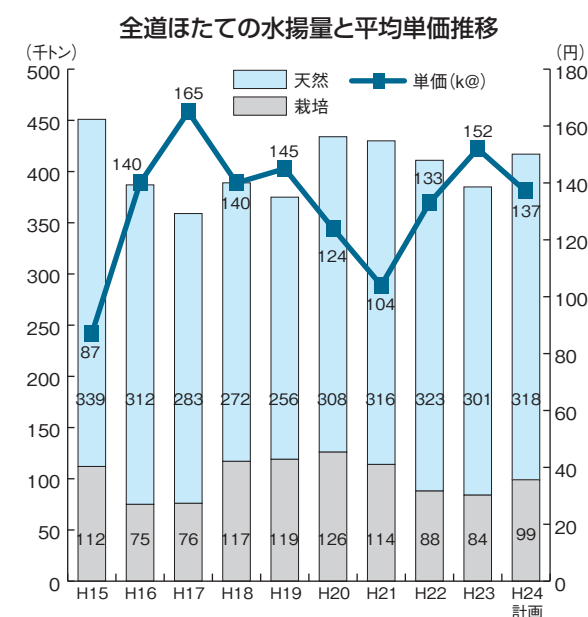
- ① 全国規模での販促活動強化による、親製品の消費拡大に向けた取り組み
- ② 消費者ニーズへ対応した骨取製品の増産（海外加工含む）
- ③ 簡便調理商品の開発（レンジ、フライパン調理等）

【輸出】

- ① 欧州不況の影響や円高等によって減退した中国向けマーケットの再構築と新たな販路確保に向けた取り組み
- ② 中国向け原料輸出の再構築（青島・大連）
- ③ 中国以外の原料販売先・委託加工先の開拓（ベトナム等）
- ④ 欧米輸出に向けた市場調査の実施

（2）魚卵対策

- ① 製品高で消費が減退傾向にある魚卵の消費安定に向けた取り組み
- ② 国内の安定流通に向けた年間を通じた販促の継続
- ③ 海外日本食レストランに対する供給等製品輸出の推進



2. ほたて

本道のほたて漁業は、近年、環境変化（高水温・餌不足・有害生物の付着）によって、成長不良・低歩留など水揚げの不安定化が顕在化しています。

一方、流通面においては、国内景気の低迷により消費者の購買力は減退傾向にあり、輸出についても円安基調となりつつあるものの、依然として厳しい状況にあります。

本年度については、関係行政機関との連携により、安定的な生産体制の構築に向けた取り組みを強化するとともに輸出基盤整備を更に進め、消費の安定確保と在庫調整機能としての輸出拡大策の継続に取り組みます。



先月号から2回にわたり、ぎょれんの平成25年度事業計画をご紹介します。今回は、秋鮭・ほたて・昆布の品目別対策、購買事業等の計画についてご紹介します。



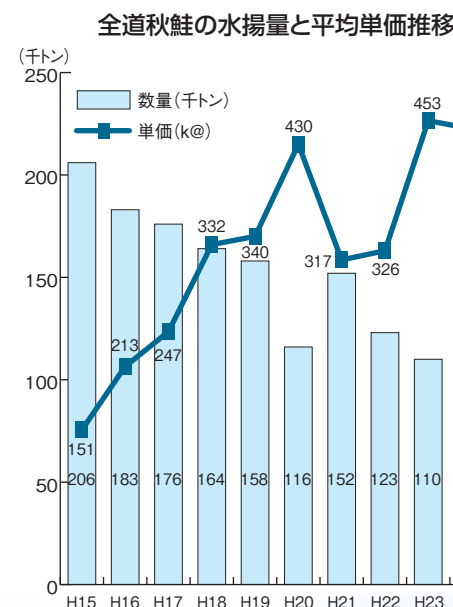
ぎょれん 西副会長

1. 秋鮭

世界の鮭鱒生産量は300万トンを超える規模となるなか、近年、道産秋鮭の水揚げは減少傾向となっています。

流通面においては、平成24年度は、競合するチリ産銀鮭の大量搬入により、国内鮭鱒マーケットが混乱し、秋鮭の市況低迷を強いられ、輸出環境も急変し、中国向け輸出も大きく減少する事態となりました。

こうした環境においては、本年度も、関係会員と一体となった流通対策事業の継続と強化が必要不可欠であり、国内外の動向を的確に掌握した中で安定した消流確保に全力を投入していきます。



（1）関係団体との連携による生産の安定化に向けた取り組み

貝の小型化に対応した重点的な調査研究の推進

「北海道ほたて漁業振興協会としての重点取り組み事業」

- ① ホタテガイ成長モニタリング調査
- ② オホーツク海ホタテガイ外海採苗安定調査および浮遊幼生自動解析技術開発
- ③ 貝毒ブランクトンによるホタテガイ毒化実態モニタリング試験

（2）安定消流可能な原貝価格形成への取り組み

- ① 原貝値決め時の製品指標価格の提示
- ② 流通対策の実施による円滑な消流の確保と原貝価格の維持
- ③ サイズ組成に即した内販・輸出版売戦略の強化

（3）消流安定化に向けた流通対策の強化

- ① 国内流通対策
- ア. 末端実需を見据えたサイズ別販売戦略の推進
- イ. 本会直営工場の生産機能を活用した新商品開発及び販路開拓の促進
- ウ. コンビニ等への販路開拓による乾貝柱の国内シェア拡大
- ② 輸出促進対策
- ア. 早期に相場形成による玉冷の対米輸出拡大

販売事業・品目別対策について

イ・海外の水揚げならびに流通状況の早期把握による迅速な対応
ウ・乾貝柱の消流安定化のため、香港・中国本土等の主要海外市場の消流状況調査と販促事業の継続（競合する中国産の動向調査を含めた）

（4）輸出環境整備への取り組み

① EU向け輸出促進対策
ア・行政との連携によるEU-HACCP認定工場の早期拡大への取り組み
イ・EU取扱業者との連携による新規販路開拓ならびにEU輸出シェアの回復への取り組み
② MSC認証
ア・MSCの認証取得に合わせたCOC認証の取得促進に向けた取り組みと輸出体制の整備
イ・MSC認証の有効活用による輸出拡大に向けた取り組み



EU-HACCP早期認定に向けた連絡協議会（1月）

購買事業について

厳しい漁業環境が続くなか、石油製品価格が高騰しつつあり、また漁業資材の価格も高止まり傾向にあるなど漁業経営を圧迫しています。

系統購買事業の充実により、燃油の取扱体制の強化を図るとともに、系統ブランド資材の普及拡大を核とした漁業経営コスト削減の取り組みなどを行っていきます。

（1）石油製品

① 系統利用率の更なる向上による仕入ならびに価格牽制機能の強化
② 共有燃油施設自主検査の充実、計画的修繕による施設トラブルの未然防止
③ 漁協職員を対象とした、燃油保安監督者研修の実施

（2）系統ブランド資材

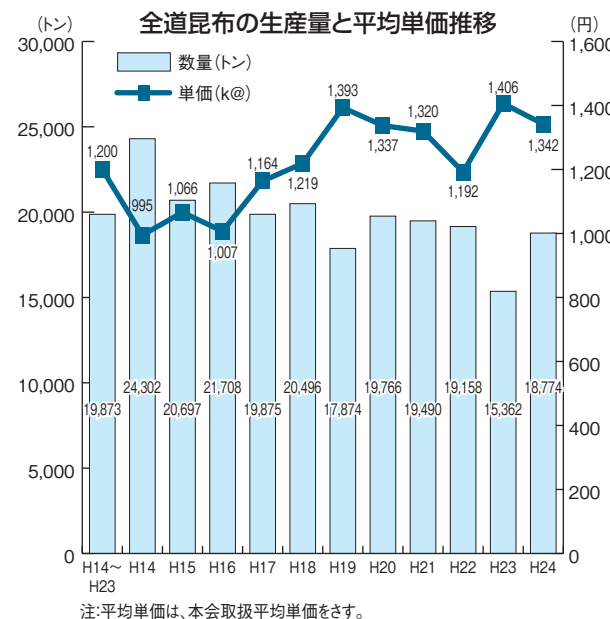
① 系統ブランド資材普及拡大による価格低減化への継続的取り組み
② 価格競争力強化による全道におけるシェア拡大
③ 「系統ブランド資材評価推進委員会」活動の強化による地区需要・ニーズに対応した新商品・新仕様品開発への組織的取り組み（サンマ船用ワイヤーロープ・ベトナム製養殖籠・GKスーパーロープ・ゴム製品等新製品開発普及）

3. 昆布

昨年度の道産昆布の生産は、近年にない大減産となった平成23年からは回復見込みにあるものの、中期的な減産傾向が続いています。

このため、本年度より、全道的な昆布漁業生産振興に向けた北海道昆布漁業振興協会の設立を機に、昆布生産回復に向けた各種施策に取り組みます。

また、昆布の消費は依然として漸減傾向が続いており、特にダシ向けについては消費の低迷が顕著となっています。銘柄別の消流状況を充分踏まえ、昆布業界との連携による需要回復に取り組みます。



④ 漁協・マリノサポート(株)との連携による組織的普及活動の強化

⑤ 昆布用軽劣化スーツの普及・拡販



系統ブランド資材の商品カタログ

（3）魚函

プラスチック製品の提案（助宗向けノートタンク、再生ポリ魚函等）ならびにイカ丘詰用撥水段ボールを活用した新容器開発等、衛生的容器への代替促進

（4）施設関連事業

① ぎょれん設計センター(株)との連携による漁協施設整備計画等への総合的コンサルタント機能の発揮（積算・補助申請事務）
② 海水殺菌装置代替に向けた全道取りまとめ実施
③ 会員・生産者に向けた省エネ・省力化機器（システム）等の開発普及

（5）その他

① 購販推進委員会・漁協各種部会との連携強化

（1）昆布漁業生産の安定に向けた取り組み

① 北海道昆布漁業振興協会の設立による具体的取り組み
ア・雑海藻駆除事業拡充に向けた予算確保への取り組み
イ・道総研との連携強化による生産回復のための調査研究の促進
ウ・乾燥機導入普及ならびに協業化の検討
エ・労働力確保・重労働軽減に関する取り組み
② 生産者及び流通・加工業者による意見交換の実施
昆布の生産・加工・流通関係者が一堂に会した懇談会の実施

（2）消費回復に向けた取り組み

① 関係団体との連携による効果的な消費宣伝事業の実施
② 大消費地に重点を置いた需要回復対策の実施
③ 消費量減少が著しい若年層向け食育宣伝活動による需要喚起
④ 関係業界との連携によるダシ向け以外の用途開発

（3）秩序ある輸入昆布の取り進め

道産昆布の安定流通を基本に、日昆・全調ならびに輸入相手国との相互理解による秩序ある輸入の継続推進

② 購買専門委員会全道漁協購買事業推進会議地区漁協購買担当者会議の継続開催
③ 全道漁協担当者海外視察研修の再開、展示即売会開催や各種部会への積極的参加
④ 「購買情報」の適宜発行によるタイムリーな購買関連情報伝達

食の安全・安心対策について

消費者の食品の安全性に対する関心が高まるなか、製品の品質・衛生管理や表示の適正化に向けた取り組みが一段と重要になっています。本会直営工場、漁協工場、提携加工業者等の品質・衛生管理向上に取り組み、食の安全・安心対策に本年度も万全を期していきます。

（1）本会直営工場・漁協工場・提携加工業者の品質・衛生管理レベルの向上に向けた取り組み推進と定期的な工場点検の継続及び改善指導の強化

① ぎょれん総合食品(株)は、平成23年度に取得したISO22000による管理を札幌工場へ拡大推進
② その他直営工場は、各種HACCPでの衛生管理レベルの向上に向けたISO22000に準じた指導の実施
③ 協力工場、提携加工工場には、定期的な工

場点検と各工場の実態にあわせた改善指導の実施



ぎょれん品質管理部による工場点検の様子

(2) 全道漁協職員向け衛生管理指導の実施

- ① 組合自営工場担当者への衛生管理研修の実施
- ② 全道ブロック別一般職員向け衛生管理研修会の開催

(3) 商品の品質・衛生管理や表示適正化に向けた取り組み

- ① 本会取扱商品の表示内容適正化ならびに商品仕様書の一元管理に向けた取り組みの推進
- ② 表示適正化に向けた本会・グループ職員の「食品表示検定」資格取得の推進

- ② 青年部創立50周年記念を契機とした各漁協青年部活動支援、育成

(2) 浜と連携した食育活動、魚食普及の推進

- ① 札幌市内等での「出前事業」「料理教室」の継続実施
- ② 道女性連と連携した道外生協との組織的連携による食育活動の強化推進

(3) 広報活動の充実

- ① 本会ホームページによる会員ならびに一般消費者への情報発信内容の充実
- ② 広報誌「なみまるくん」を通じた各種情報の全道漁業者へのタイムリーな提供



ぎょれんホームページ

経営体制について

漁業を取り巻く環境が厳しさを増すなか、本会経営も浜の厳しさを反映し苦戦を強いられています。こうした状況下、本会が浜の負託に応え、各種対策事業を推進していくためには、安定した経営の確保と財務基盤の更なる強化が不可欠であり、本年度も引き続き、

宣伝・販促事業及び食育事業

道産水産物は国内需要の減退から魚価の低迷を余儀なくされています。一方、輸出事業は魚価の安定において需給調整機能を発揮してきましたが、昨今の放射性物質による風評被害、為替変動、政情動向等の影響から不透明さを増しています。

これらの状況から、国内消費の拡大は喫緊の課題であるとの認識に立ち、関係団体・協議会と連携した宣伝・販促活動の強化を図っていきます。また、食育事業による需要の掘り起しを図り、販促事業と一体となった事業も展開していきます。

(1) 宣伝・販促事業

- ① 対象魚種の消費特性を訴求した宣伝事業の推進ならびにマーケティング機能の拡充
- ② 大手調味料メーカー等とのタイアップ事業の強化による多様なメニュー提案と国内外での消費拡大の推進
- ③ 「道産水産物流通安定対策協議会」(※)との連携による道産鮮魚貝類の地産地消・魚食普及の強化及び全国規模でのネットワーク化への取り組み

※「道産水産物流通安定対策協議会」とは

東日本大震災・福島原発事故による道産水産物への影響が懸念されたことから、札幌市中央卸売市場・札幌市場荷受2社・本会に加え、道をオプザバーとして立ち上げた協議会。道産鮮魚流通の円滑化を図り地産地消を推進するため、各種販促活動を実施しています。

経営基盤の強化を図るとともに、債権保全・在庫管理等の様々な経営リスクの回避に向けた管理体制を強化していきます。

実践3年目となるCSR活動(※)については、環境に配慮した取り組みを行い、社会貢献活動への参画を継続していきます。

また、今年度は中期的事業推進方向の最終年であることから、次年度以降の事業推進の方向性についても組織的協議を行っていきます。

(1) 本会経営の安定化に向けた経営基盤の強化

- ① 本会経営基盤である共販体制ならびに系統利用率の向上に向けた取り組み強化
- ② 計画的内部留保による財務基盤の強化と会員配当の継続
- ③ 債権管理・在庫管理等の経営リスク管理体制の強化

(2) CSR活動※の実践に向けた取り組みの推進

- ① 法務機能の強化によるコンプライアンス(法令遵守)の推進
- ② 認証取得したISO14001に連動する環境に配慮した取り組みの継続
- ③ 植樹活動への支援と本会職員の積極的参加による環境保全活動意識向上に向けた取り組みの継続

※CSR(Corporate Social Responsibility)とは
企業の社会的責任。企業が事業活動において利益を

(2) 食育事業

- ① 道産水産物の優位性を訴求したメニュー作りによる料理教室の実施
- ② 全国の生協とのタイアップによる料理教室の開催、魚食普及の推進と販促事業との連携による消費拡大へ向けた取り組み
- ③ 次世代の消費者である小学生や幼稚園児を対象とした食育教室の実施拡大
(親子料理教室、学習会、給食への食材提供等)
- ④ 本会ホームページを活用した道産水産物の認知度向上と連携した食育の情報発信

組織強化・広報活動について

近年、浜の世代交代が進むなか、組合員の協同組合意識の希薄化が指摘されています。漁協系統運動の推進にあたっては組織結集率の向上が不可欠であり、本道漁業の未来を担う若手漁業者に対し、協同組合意識の啓発を強く推進していきます。

また、2012年の国際協同組合年を契機に、協同組合間の提携をより強化するとともに、漁協青年部・女性部活動との連携を深め、食育・魚食普及活動の輪を拡げていきます。

(1) 組織強化活動

- ① 漁協購販推進委員長への協同組合運動意識調査に基づく購販活動と一体となった協同組合運動啓発活動の推進

優先するだけでなく、顧客、株主、従業員、取引先、地域社会などの様々なステークホルダー(利害関係者)等の関係を重視しながら果たす社会的責任のことを指します。

(3) 人材育成の強化と労働生産性の向上に向けた取り組みの推進

- ① 人材育成計画に基づく教育研修の推進
- ② 業務内容の変化と業務効率化を踏まえた適正人員配置の推進

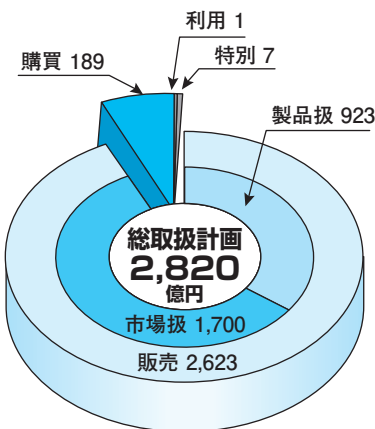
(4) 費用対効果を勘案した設備投資の実施

- ① 支店事務所等の老朽化に伴う計画的施設整備
- ② 中長期的視点に立った直営工場体制の見直しと計画的施設整備

(5) 関連会社との一体的経営の推進

- ① 関連会社との人事交流の推進
- ② 本会と一体となった浜に対する機能発揮に向けた取り組み
- ③ 関連会社に対する経営統括管理に基づく健全経営の確保

平成25年度事業別取扱計画



[単位：億円]



宗谷漁協 干貝柱工場

干貝柱の製造・品質の向上を目指す

組合の新施設が完成しました

完成間もない、北るもい漁協、宗谷漁協の新施設取材しました。

北るもい漁協 荷捌施設・事務所・直売所

漁村の魅力向上と、六次産業化を目指す



今組合長



宗谷の海味のロゴが色鮮やかな工場外観。全長は150mを超えます。



原貝は屋外のコンベアで上に送られ、工場内の原貝庫に投入されます。流れは全て自動化され、大幅な省力化に。



20トンと40トンの組合せが2列に並ぶ原貝庫。1列(計60トン)が当日処理用、もう1列に明日処理分を受け入れることができます。写真は製造ラインに向けて降りていく40トンの原貝庫を撮影。



洗浄後、スチーマーで一番煮が行われたほたて貝。脱貝機の振動により、貝殻が外されます。

また、新たにHACCP対応が可能な加工室も設けており、今後はHACCPの取得に向けて準備を行うとともに、ほたてソフト貝柱やほたて耳を使った加工品、特産のもずくの加工品の製造などに活用していく予定です。

宗谷漁協の干貝柱工場は、旧工場の老朽化から、国の補助を受けて全面的に建て替えが行われ、4月から操業を開始しました。新工場の広さは1・5倍、新たな設備も多数導入され、製造能力が大幅にアップ。今まで原貝処理で一日平均約40トンだったのが、60トンまで受け入れが可能となりました。各部屋には除湿機を完備して湿気対策に万全を期したほか、最新の焙乾機や低温での除湿乾燥が可能で、空気の制御乾燥装置を導入したことにより、製造期間の短縮や、品質の向上も期待されます。



生産量の増加により、耳取り作業のスタッフも増員しています。



施設をご案内いただいた佐藤工場長は、新設備に合った製造法や稼働計画などを考え、「やりがいと一層の責任を感じます」と教えてくれました。



バーナーの前についた羽が動き、温度のムラが少なく、効率的に乾燥できる高温焙乾機。約1時間かかっていた工程が、40分に短縮。以前は2台だった台車も8台入ります。



焙乾されたばかりのほたて。



低温でじっくり乾燥できる空気制御乾燥装置を新たに2機導入。タイマー付なので、夜間の乾燥にも利用が可能です。



今後、新設された加工室で製造予定のソフト貝柱。

漁協事務所



丸みを帯びた優しい形のカウンターが出迎える、広々とした漁協事務所。



漁協事務所の入口を分かりやすく示す、外の立看板。

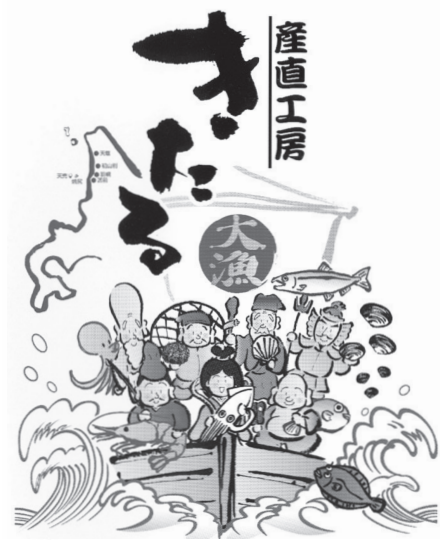


港側から見た施設。直売所「産直工房きたる」の外壁には、特産の甘えび、ほたて、たこの写真が並び、来店を誘います。

「産直工房きたる」の開設です。羽幌町だけではなく、北るもい漁協がある4町村の鮮魚や加工品を幅広く取り扱う予定です。また、顧客情報の整備に基づく情報発信も予定しており、販売はもちろん、地域のPR拠点としても期待が高まります。

もう一つの目玉は、直売所「産直工房きたる」の開設です。羽幌町だけではなく、北るもい漁協がある4町村の鮮魚や加工品を幅広く取り扱う予定です。また、顧客情報の整備に基づく情報発信も予定しており、販売はもちろん、地域のPR拠点としても期待が高まります。

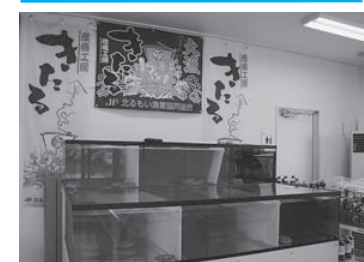
北るもい漁協(羽幌町)の荷捌施設・事務所・直売所が羽幌港中央ふ頭に場所を移し、3月に完成しました。施設の建設には、国や4町村(天塩・初山別・羽幌・苫前)の補助を受けており、漁協は町や商工会などと共に立ち上げた協議会で、施設建設の目的である「漁村の魅力向上」と「六次産業化」について、協議を重ねながら、建設を推進しました。すぐ隣には、同時期に新しくなったフェリーターミナルがあり、はばろ温泉サンセットプラザホテルと漁協、フェリーターミナルが一線に結ばれた立地は、羽幌の新たな観光資源としても注目されています。



—店名の由来—
来る者は拒まず(きたるものはこばまず)
《心を寄せて近づいて来るものは、どんなものでも受け入れるという意。》
人が来たる - 千客万来
福が来たる - 幸福が来たる
魚が来たる - 大漁に沸く
北るもい漁協 - 漁協の発展
金船七福神 - 日本海から海の幸を運んで来たる

直売所「産直工房きたる」のロゴマーク。店名にはさまざまな思いが込められています。

直売所「きたる」



取材時は、4月24日のオープンに向けた準備の真っ最中。店内には活魚用の水槽が並び、バックヤードで甘えびのパック詰めが行われていました。

荷捌施設(卸売市場)



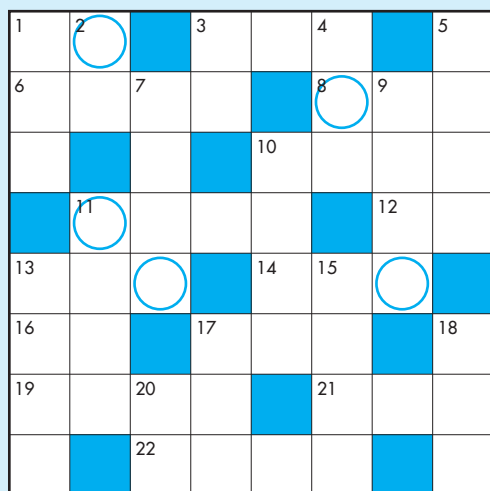
荷捌所の面積は、従来比1.5倍。天井も高くなり、採光も充分。左側がカーテンで仕切る低温スペース。夏場の鮮度保持に役立ちます。帰港後すぐに漁に出る漁師さんのためのシャワー室や、合羽乾燥室も新設されました。

稚貝の出荷の最盛期を迎え、活気づく浜。施設をご案内いただいた蝦名専務もフォークリフトに乗り、大忙し。



クロスワードパズル

次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。野山に新緑が萌ゆる5月。心地よい春の風を感じながら、ハイキングや登山など屋外でのレジャーが楽しめる季節です。



○印に当たる言葉を
うまく並べてください。

解答 □□□□□ となります。

くわしい応募方法は、17ページをご覧ください。
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。



4月号の解答と当選者
シンセイカツ

(福島町) 川村 康子さん
(浜中町) 鈴木 忠昭さん
(厚真町) 三上 澄子さん
(根室市) 合田 純子さん
(枝幸町) 葛西みゆきさん

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5ヵ所の異なる点があります。
さあ、見つけてください。
(印刷のズレや汚れは関係ありません。)

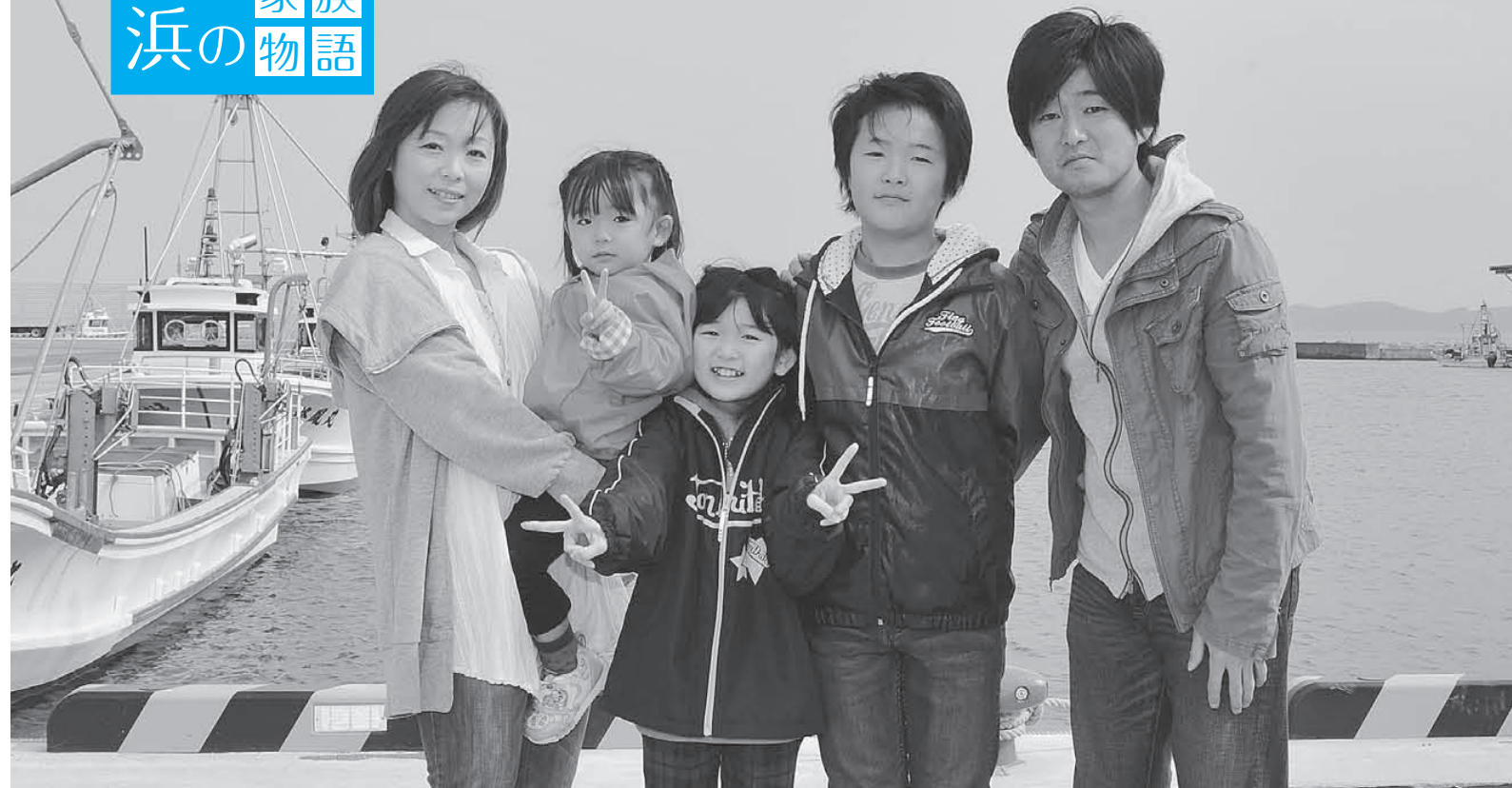


※答えは17ページにあります。

表紙に登場いただいたご家族を紹介します。

西網走漁協 **山本さんご家族**

今月の
家族物語



【山本さんご一家】 山本剛史さん(37歳)、雅美さん(37歳)、大翔くん(12歳)、望愛ちゃん(9歳)、紗愛ちゃん(3歳)

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介します。今回は、西網走漁協の山本さんご一家です。

働いてみてわかった両親の大変さ

網走市の西方、秋にはサング草で湖岸一帯が赤く染まる能取湖。その南岸の卯原内地区で代々漁業を営む山本家の3代目剛史さんは、年間を通じて湖内でのほたて稚貝養殖をメインに、夏はえび籠漁、秋には共同で特別採捕の定置網漁に従事しています。

「デスクワークよりも体を動かして働くのが自分に合っている」と漁師の道を志し、網走南ヶ丘高校卒業後の半年間、稚内の漁業研修所で学びました。高校時代は、部活動のサッカーに熱中し、実家の手伝いはしなかったという剛史さんですが、「働いてみて初めて、両親の仕事の大変さがわかった。」と当時を振り返ります。3年前に正組合員となって独立し、稚貝の出荷や共同の定置網漁以外は全て、一人で沖での作業をしています。

最近の高水温傾向に、稚貝の管理には特に気を使っているという剛史さん。夏から秋の養殖開始前に、卯原内地区18軒の漁家が交代で測定する湖内の水温や酸素濃度のデータを基に、稚貝のザブトン籠を吊るす桁の高さを決めているそうです。

家族との旅行を目標に仕事にも精が出ます

元西網走漁協職員の雅美さんは、浜の仕事のことは知っていたそうですが、「朝が早いことやアルバイトで働いてくれる人を集めるのは結構大変でした。」と話します。紗愛ちゃんが保育園に通うようになった今年からは、本格的に稚貝の出荷や養殖資材の修繕、えびの選別などの陸仕事を中心に手伝い、剛史さんを支えます。今春から中学生になった長男大翔くんは、明るく、好奇心旺盛な性格。部活動では新たに卓球に挑戦します。お手伝いもよくしてくれる頼りになるお兄さんです。スキーをするのが好きだと教えてくれた小学4年生の長女望愛ちゃんは、何事にも一生懸命な頑張り屋さん。ピアノとバレーボールを習っています。今年から保育園に入園した次女紗愛ちゃんは山本家の癒し系。家族からの愛情を受けてすくすくと成長しています。

「趣味は旅行かな。」と話す剛史さんは、今春、家族で沖縄に行きました。「また沖縄に行きたい。」と盛り上がる子ども達を見ながら「毎年とは言わないけど、また家族で旅行に行けるようにと思えば、仕事も頑張れるよ。」と話す笑顔が、とても印象的でした。



今月は、ぎょれんと顧問契約を結んでいる小寺・松田法律事務所の代表弁護士、小寺正史さんにお話を伺います。

ぎょれんでも積極的に取り入れているコンプライアンス（法令順守）など、現代は、新しい物の考え方が増え、社会そのものも変化しています。伴う法律の変更もあるため、「弁護士が果たす役割が、より日常的になってきている」と話す小寺さん。弁護士としてのさまざまなお話を伺いました。

弁護士の事務所はチームの力の結集です。

私達の事務所はオールマイティな事務所を目指しています。これまでお話しした内容は「企業法務」と呼ばれる分野ですが、個人の仕事も行っています。今年、私の事務所は創立30周年を迎えました。現在、弁護士は13人います。マンパワーがあると、さまざまな仕事ができますので、ノウハウが蓄積され、企業・個人問わず、多くのご相談に対応できるようになっています。

法律家は、個人で動くと思われがちですが、法律事務所とは、実は「チーム」そのものです。法律の専門家として複数の弁護士が協力する力と、資料集めや下調べをする職員の力、それらがひとつとなって初めてパワーを発揮します。

人との信頼関係を築く、2つの大切なこと。

弁護士として私が大切にしていることは二つあります。ひとつは、法律の専門家なので、法の知識をしっかりと持つことです。もうひとつは、人に対してきちん

ライフワークとして、高齢者の悩みの解決に取り組んでいます。

と対応する、誠実であることです。弁護士は依頼者の立場でお話をしますから、対立する相手に言うべきときは言わなくてはなりません。しかし、それはあくまで法律家の立場でお話しているだけであって、社会や人間としての基本的なルールに則って相手の方にも誠実に対応すべきだと考えています。誠実に対応すれば、対立する相手であっても、こちらの話を聞いて納得してくれることもあります。誠実な対応の積み重ねが、信頼に変わるのだと思います。

全国の全ての弁護士と弁護士会が組織する「日本弁護士連合会（日弁連）」は、法のあらゆる分野の課題や問題解決に取り組む活動を行っています。私が以前、日弁連の副会長を務めた際に取り組み始めたのが、高齢者問題です。高齢者が抱える悩みや不安の解消に少しでも弁護士が役に立てるように、常々活動がなされています。これは、今も私のライフワークとなり、フリーペーパー（※写真1）と協力し、毎号、高齢者向けのページを

弁護士法人 小寺・松田法律事務所 弁護士

小寺 正史さん

Profile

昭和25年、幕別町生まれ。北海道大学法学部を卒業し、昭和52年司法試験合格。昭和58年、小寺正史法律事務所を開設。平成14年に現事務所に移転。毎朝のウォーキングと、新聞の書評欄からジャンルを問わず選ぶ読書が趣味。

社会のシステムが変わり、企業の顧問弁護士が果たす役割も、日常的に。

今は社会のシステムが大きく変わってきています。以前は、コンプライアンス（法令順守）という言葉もありませんでしたし、企業の側でも「よほど困ったときに相談するのが顧問弁護士」との認識が多かったと思います。

ぎょれんさんとの顧問契約に基づき行っている仕事のひとつが、契約書の内容の事前確認です。過去に交わした契約書についても、法律の改正による不備がないかどうか確認をします。

このようなチェックが最も厳しいのは、監督官庁や内部監査が厳

困ったときには相談を。専門家の手助けがあると不安が解消されることも多いのです。

しい金融機関だけだったのですが、今は、ぎょれんさんをはじめとして、ある程度の規模の組織では、普通のことになりつつあります。

社会のシステムの変化は、法律にも反映。

現代は一言で言うと、グローバルな社会、そして、自由競争の世の中です。コンプライアンス（法令順守）という言葉も、グローバル化によってもたらされた欧米のルールのひとつです。

グローバルな社会では、多様な価値観のなかで仕事を進めなければなりません。例えば、未だにワイロが横行している国もありますので、「法律を守りましょう」という概念は一見当たり前と思いますが、ちですが、きちんとルール化することも必要になってきます。企業の場合で言うと、経営の透明性や厳密な契約の締結など、公正さが求められます。そうした公正な社

会を担保するために法律もどんどん変わってきました。

例えば、下請けに対する優越的地位の乱用を禁じる「下請代金支払遅延等防止法（略して「下請法」と呼ばれる）」は、平成21年の改正で、適用基準が非常に厳しくなりましたし、平成13年に制定された「消費者契約法」など、消費者を保護する法律も増えてきています。自由競争の世の中では、放っておくと、強者の弱者いじめが露骨になりかねません。それを防ぐためにも、法律の整備がなされているのです。

知らず知らずに、自分の組織の行動が法律違反になっていないか、あるいは逆に、他社との取引のなかで不利益を被る契約内容になっていないか。ぎょれんさんでは、そのような確認作業に危機感を持って取り組んでおり、それが私達への依頼につながっていると考えています。

作り、企画やコラムの提供を行ったり、老人会などに交通費と資料代程度で講演に出向いたりしています。これらの活動を見聞きした方から、相談したいと連絡を受けることも多く、その場合には、先ずは話を聞きましょう、とお会いします。

高齢者の悩みもさまざまで、例えば、奥さんには世話になったから、奥さんに多く財産を残すにはどうしたらいいのだろうか、自らの終末医療に対して書き置きを残したいなどさまざまです。また、自分の会社が倒産したから奥さんと離婚したいという相談もありました。いや、離婚しても何にもならないよと教えると、そうだったんですかとびっくりして、再婚して元に戻った、なんてこともあります。

弁護士は敷居が高いと思う方も多いのですが、病气と同じで専門家の見立ては大事なんですよね。間違った知識で進んでしまうと余計にこじれることもあります。この「なみまるくん」を見たと言ってもらえれば、いいですよ。困ったときには、電話でも気軽に相談にのりたいと思います。

弁護士法人 小寺・松田法律事務所
札幌市中央区大通西10丁目 南大通ビル6階
電話 011-281-5011
<http://www.kmlaw.jp>

札幌のほか、岩見沢、滝川、苫小牧にも事務所を開設しています。



（※写真1）
札幌市内を中心に83万部配布されているフリーペーパー「ふりっばー」と協力し、高齢者向けのページを企画。「シニアのための法律相談所」と題したコラムも執筆されています。



受付の奥の事務所には、多くのスタッフの姿が。



花が多く、落ち着いた雰囲気。個別相談フロア。

福島原発事故損害賠償請求に係る説明会を開催

汚染水の漏えいについて強く抗議しました

4月19日(金)、札幌市の第2水産ビル8階会議室において、福島原発事故損害賠償請求(鮮すけとうだら)に係る説明会が行われ、東京電力株式会社(以下、東電)から賠償額約11億2800万円の回答がありました。

昨年9月、ぎょれんが窓口となり、平成23年度のすけとうだらの水揚げ道内44漁協分、約12万9千トンを対象に、前年との価格差から算定した約16億8千万円を東電に請求。昨年12月、札幌で開催した説明会では、東電は北海道が政府の風評被害の対象県に指定されていないことなどを理由に賠償に難色を示したことから、漁業者の代表が東電に対し、風評被害の実態などを訴え再考を要求しました。ぎょれんは東電と協議を継続するなかで、改めて、東電より一定の算定式に基づく今回の賠償金額が示されました。参加者で東電の回答を協議した結果を受け、代表してぎょれんの櫻庭会長は東電に対し、「今回提示を受けた賠償額については了承する。また平成24年度以降についても適宜請求させていただく。」と回答しました。

北海道漁業環境保全対策本部の平野本部長(えりも漁協組合長)は4月5日に東電が起こした汚染水の漏えいについて、「汚染水が再び漏れたという報道があったが、言い方は悪いかもしれないが、意図的に行っていると思わざるを得ない。海に汚染水を一滴たりとも流してもらっては困る。東電は、危険なものを取り扱っているという認識がないのか。」と一喝。「原発事故以来、すべての魚種の価格が安くなっているのが現状。また、円安で輸入原油価格や漁網も値上がりしている。我々漁業者は死ぬと言われているようなものだ。」と訴えました。最後に「汚染水を1滴たりとも海に流さないという強い決意で対応願いたい。」と、東電側に強く抗議しました。

03



今回の賠償について説明する橋田部長ら東京電力の担当者



平野本部長から決して汚染水を海に流すことが無いよう強く訴えました

全道各地で地区組合長会議開催

「中期的事業推進方向」の最終年度に当たる今年度の事業計画案が協議されました

4月2日(火)から10日(水)にかけて、ぎょれんは2班に分かれて各地区組合長会議に出席し、平成24年度決算見込み並びに剰余金処分案、平成25年度の事業計画案等について説明、意見を交わしました。

今年度は、平成23年度に策定した3カ年に渡る「中期的事業推進方向」の最終年度に当たります。グローバル戦略の強化や人づくり・物づくり・ネットワークづくり等を目標とする事業計画案の詳細を説明。また、今年度は政権交代後の株価回復・円安基調によるデフレ脱却と消費回復に期待がかかる一方で、燃油価格の高騰が漁業経営を圧迫し、政府のTPP交渉参加表明による貿易自由化問題が正念場を迎えるなど本道漁業を取り巻く環境が依然として厳しいことを踏まえ、燃油高騰対策と水産貿易問題が議題として上程され、今後の対応策が話し合われました。

01



今回寄せられたご意見を基に今年度の事業計画案を取りまとめます(写真は4月10日開催の小樽地区組合長会議)

平成25年度全道漁協新採用職員研修会を開催

仲間と共に漁協職員として必要な知識やマナーを学びました

4月2日(火)～4日(木)の3日間、札幌市の第2水産ビルにおいて、ぎょれんの主催による平成25年度全道漁協新採用職員研修会が行われました。今年度道内の漁協に採用された職員47名が参加し、研修初日は開講式のあと、ぎょれん指導教育部富田部長からの漁業・漁協をめぐる情勢についての講演、指導教育部から漁協のあらましや漁協簿記に関する講義を受け、漁協職員に必要な基礎知識を集中的に学びました。

2日目は参加者が8つのグループに分かれて、(株)人事マネジメント研修所の宮島氏から、社会人に必要な規律や責任、ビジネス文書の書き方などを学びました。「社会人としての心構え」に関する課題には、グループで話し合いながら取り組む作業を通じ参加者同士の交流も深まります。午後は職場を想定した敬語や言葉遣い、名刺交換やお茶の出し方の練習を行い、ビジネスマナーの基礎を身につけました。最終日には早朝に札幌中央卸売市場を見学し、中央市場の役割を勉強。在札系統団体の事務所を訪れ、漁協系統の役割も確認していました。

3日間の研修を終えた受講生は、「今まで漠然としていた漁協職員に必要な知識や社会人としてのマナーがわかり、また同じ時期に漁協職員となった全道各地の仲間とも親交を深めることも出来て良かった。早く1人前の職員になれるように頑張ります。」と充実した研修を振り返り、それぞれの職場へと戻っていきました。

02



受講生同士で名刺の受け方と渡し方をチェックしていました



講師から教わったお茶の出し方を練習してみる受講生

本会代表監事 鈴木標津漁協組合長ご逝去



本会代表監事、鈴木誠標津漁協組合長が、4月10日午後9時45分にご逝去されました。享年70歳。

鈴木組合長は、平成二十一年に、本会代表監事に就任され、本会及び関連会社十社の監査業務に、多大な尽力をいただきました。

昨春秋に体調を崩され、入院療養生をおくられていました。早期の回復が期待されておりましたが、4月10日、容体が急変し、残念ながら、帰らぬ人となってしまいました。

謹んで哀悼の意を表するとともに、鈴木組合長のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

編集部からのお知らせ

皆様からの便り、写真、イラストをお待ちしています！

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

- ①なみまるおたより箱への投稿（便り、写真、イラスト等）や、広報なみまるくん5月号への感想・ご意見など
- ②11ページのクロスワードの答え
- ③住所・氏名・年齢・電話番号

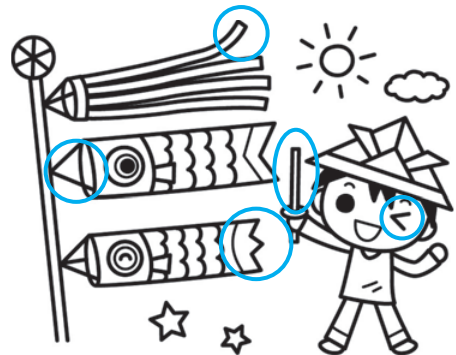
〈宛先〉5月20日までにお送りください。

（郵便）〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん 総務企画部 広報担当
（FAX）011（242）3543
（電子メール）info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、便り、写真、イラスト等の掲載（氏名、年齢、市町村名）にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

11ページの間違えがしの答え



編集後記

特集(8頁)で訪問した北るもい漁協の施設と宗谷漁協の干貝柱工場は、どちらも素晴らしい施設でした。規模の大きさと、使い勝手が考えぬかれた設備に感動し、夢中でカメラのシャッターを切りました。

このような現場を見せていただくたびに思うのが、「この風景そのものが感動を呼び、観光資源になる」ということ。作業への支障や安全性の問題があるので、誰でもとはいきませんが、一般の方が北るもい漁協の直売店に立ち寄った際に、宗谷へ観光に来た際に、少しでも迫力ある水産業の風景に出会ってくれたら、と思いました。（工藤）

先日、就職活動中の一人の大学生が私のところに来てくれました。彼は、同窓生を訪ねて職場の雰囲気や仕事について生の声を聞くOB訪問をしているそうです。「なぜ、ぎょれんに就職したのですか?」、「仕事でやりがいを感じるのとはどんな時ですか?」と聞かれ、普段の取材で「聞く側」の私にはとても新鮮でした。取材される方の気持ちもわかり、私自身がとても勉強になりました。（櫻田）

オレンジベストのお父さんと 今日也大漁の 明るい我が家

（社）北海道漁船海難防止・水難救済センター

3月から春定置が始まりました。やりいのかの大漁に浜が賑わつよう願います。早くやりいのかの刺身で一杯やりたいですね。
（小樽市 宮古 知行さん 62歳）

浜では、春漁が本格的になってきました。救命胴衣の絶対着用を呼びかけ、安全操業と大漁を願っています。
（北見市 藤田 浩二さん 45歳）



みなさんのお便りでつくるページです。

なみまるおたより箱



4月でもまだ寒いですね。今年度もたくさん魚が獲れることを願います。
（根室市 鈴木 紀一さん 44歳）

4月に入り、庭の雪も融け、新しい芽を出す水仙・チューリップ・花の咲く日を楽しみにしている昨今です。これからしばらくは漁も本格的になることでしょう。大漁を期待しています。どうぞ事故の無いように祈っております。
（七飯町 清水 悦子さん 76歳）

根室も15日から春の鮭鱒漁が解禁になります。初物で温かいご飯をいただきます。最高の幸福ですよ。
（根室市 高橋 なつ子さん 55歳）

今年の氷下待網漁も3月で終了しました。漁場は風連湖ですがオオワシや

オジロワシの美しさとたくましさには魅了されました。スノーモービルで戻ると、いつも私たちを待っていて、ちょっと離れたところから見ているキタキツネはとても可愛かったです。大自然の友よまた来年会いましょう。
（根室市 合田 純子さん 53歳）

今年は冬から春にかけて低気圧が発達し、爆弾低気圧になることが多いですね。本当にどういう風が吹くのかと心配になります。だけど、明るいニュースも！今年は鱒が揚がっているようです。家の網にも入らないかなあ。
（島牧村 高島 里子さん 62歳）

この3月に高校を卒業した息子が漁業研修所に入るまで、かに船に乗り

浜を散歩していると、ふぎのとうが顔を出し、春がそばまで来ているのを感じます。岸壁では、ほたて、かにの荷揚げで賑わい、にしも大漁で忙しいです。浜は活気があって良いですね。
（湧別町 増山 喜美子さん 81歳）

浜中漁協のあさり漁が3月13日より二潮八日間で終了しました。今年のあさり漁は、浅利どころが薄利でした。一昨年の東日本大震災での津波の影響でしょうか。来年こそは。
（浜中町 鈴木 忠昭さん 68歳）

始めました。でも船酔いで仕事になりません。この先どうなることやら。息子よ、がんばれ!!
（枝幸町 葛西 みゆきさん 47歳）

news

浜のほつとニュース

大漁祈願！

小樽

3月末に始まったほたて稚貝の出荷は、時化により予定より遅れ気味です。また、貝の成長も遅く、小さめの稚貝がやや多い傾向です。一方、各地でさくらますややりいのかの水揚げも増え、春漁も本格化してきました。積雪が多い年は豊漁と言われます。雪解けで大増水した河水の影響か、かれい類は遅れているようですが、連休明けからの小女子も含め、今後が期待されます。

室蘭

4月中旬から網入れされた春定置網漁は、本ますの漁が薄く1尾1kg台のサイズでk@1,200～900と高値で推移しています。水揚げが本格化するのには連休明け以降となる見込みです。また、管内の養殖ほたて貝は耳吊り作業が始まり、今後の成長に大いに期待がかかるそうです。生産者の方々の安全操業と大漁を祈願しています。

函館

4月に入っても天候が安定せず時化の日が続いております。先日、松前にてやりいのか10,000ケース近く水揚げされる豊漁の日があり、浜は活気づきました。一方、噴火湾のほたて漁は終盤を迎えています。いよいよ5月、これから本格的な春漁のシーズンを迎えますが、安全操業および順調な水揚げを期待しています。

梶山

4月に入ってから、本ますや黒かれいの水揚げが徐々に増えてきました。現在は本ますと黒かれいともに一日あたり約0.5トンから1トン程度の水揚げとなっております。また、なまこ漁も江差地区に加えて、4月下旬より瀬棚・大成・上ノ国の3地区で始まりました。今後もますます浜が活気づくことを願っています。

釧路

4月に入っても思わしくない天候が続いています。4月15日からは小型船サケ・マス漁が解禁となりました。出漁予定船は昨年より少なく、初日から出漁した船も減少しています。今後順次出漁し、5月上旬には全船出漁する予定です。また、春定置鮭鱒も早いところでは4月24日から網入れし、25日から水揚げが始まります。春漁でも安全操業と豊漁を願っております。

根室

日本200海里内で操業する小型サケ・マス漁が15日解禁されました。根室地区は今年29隻の出漁を予定しており、内13隻が歯舞・花咲・落石の3港から出漁しました。残りの16隻は今後、さみだれ出漁となります。今年は初めて漁獲量制限が撤廃されたものの、漁業協力金は前年よりアップし、燃油も高騰する厳しい条件下ですが、好漁と安全操業を願っています。

日高

ひだか漁協とえりも漁協で干ふのりの入札が始まりました。えりも漁協の入札では、不漁傾向で上場数量も少なく1等（葉筋が細く色が黒いもの）でk@11,000円を超え過去最高値で始まりました。各地では4月20日解禁の春定置網漁に向けた網入れ準備が進んでいます。昨年同様、時鮭の好漁が期待されます。連休明けから春漁が本番を迎えますが、安全操業と豊漁を願っています。

稚内

オホーツク海地区では、流水が影響した昨年と異なり、毛がに籠漁の水揚げが順調です。漁場造成中の帆立は、昨年よりやや歩留りが低く小型で、今後の動向に注視が必要です。日本海地区ではなまこの水揚げが始まり、価格は一昨年並の高値で推移しています。また、礼文ではむらさきうに漁も始まりました。雪が溶け、温くなりましたが、安全操業と豊漁を願っています。

北見

オホーツク海にも少しずつ春の兆しを感じられるようになりました。ほたての漁場造成は順調に進んでおり、底曳、刺網漁では、助宗、かれい、にしもなど多くの魚種が水揚げされるようになりました。これから漁本番を迎えますが、皆さんの今後の安全操業と大漁を心より祈願いたします。

留萌

3月25日から管内最大の取扱であるほたて稚貝の出荷が始まりました。4月21日現在、累計出荷数は計画の46%の約4億6,700万粒です。浜では、各漁家から稚貝が次々と出荷され、稚貝を運搬するリフト、トラックが行き交い、活気に溢れています。一時、時化が続いた影響もあり、出荷ペースは例年を下回っていますが、今後の出荷に期待しています。

春の行楽弁当にもぴったり!

秋鮭のロールパン

浜のおかあさん

レシピ



今回は秋鮭を使った「秋鮭のロールパン」をご紹介します。切り込みを入れた秋鮭にスライスチーズを挟んで揚げた、ボリューム満点の一品です。揚げたての鮭からトロトロのチーズがあふれ出すこのフライは、子ども達にも大人気。また、ロールパンに挟むので食べやすく、行楽のお弁当にもぴったりですよ。

材料(4人分)

- ・秋鮭の切り身…4切れ
- ・サラダ油(揚げ油)…適量
- ・スライスチーズ…4枚
- ・ロールパン…4個
- ・卵…1個
- ・サニーレタス…2枚
- ・小麦粉…1カップ
- 《調味料》
- ・パン粉…2カップ
- ・マヨネーズ…大さじ4
- ・塩・コショウ…適量
- ・わさびマヨネーズ…大さじ2
- ・塩・コショウ…少々

作り方

- ① 秋鮭は水気を軽く拭き取り、身に切り込みを入れ、軽く塩・コショウを振って下味をつける。
- ② スライスチーズをそれぞれ半分に切り、切り込みを入れた鮭に挟む。小麦粉を薄くまぶして溶き卵にくぐらせてからパン粉をつける。
- ③ 180度に熱した油に入れ、下に向けた面がきつね色になったらひっくりかえし、こんがり揚げる。揚げた秋鮭フライの油をしっかりと切る。
- ④ ロールパンにサニーレタスを敷いて、秋鮭フライを挟む。
- ⑤ 調味料を混ぜ、④につけて完成。



ひやま漁協
工藤 洋子さん